

# 葦

大阪発達総合療育センター機関紙  
第32号 2019年 冬

社会福祉法人 愛徳福祉会

## 大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

### INDEX

・特集に寄せて	1P	・リレーエッセイ	3P
・第8回小児在宅医療支援研究会報告	2P	・イベントトピックス	3P
・第6回DSB基礎講習会	2P	・院内学会・清水賞表彰	4P
・第13回全国重症心身障害者日中活動支援協議会近畿ブロック研修会の報告	2P	・職員研修実績状況	4P
・第5回小児理学療法学会学術大会	3P	・寄付金と寄附物品	4P

### ■ 年頭の挨拶

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

梶浦 一郎



平成最後の1月元旦を迎えました。年末の曇天とうって変わって見事な日本晴れで、今年は良い年になりそうな予感を感じました。昨年は「災」で代表されるように、風水害や地震などの自然の猛威にさらされた一年となりました。今なお多くの被災者の方が苦しい生活を強いられている事は本当に気の毒な事と思います。そんな中、昨年素晴らしいこともありました。サッカー、卓球、バドミントン、フィギアスケート、カーリングなどのスポーツの分野で男女問わず若い人たちが大活躍し、将棋の世界では16才にして7段を取るような将棋の天才があらわれるなど、数えきれないほどの活躍でした。また75才でノーベル賞受賞された本庶先生はあきらめず継続した努力の賜物で、本当に素晴らしい事だと思いました。

平成最後の年始のご挨拶に立たれた平成天皇が「伝統を守る事は大切だが、時代とともに変化していくことも大切である」と述べられましたように、この施設も50周年を迎えようとして数々の素晴らしい成果をあげ歴史を刻んで参りましたが、一時期は経営危機を招いたこともありました。それらの歴史を教訓として、これからは若い世代の方々の柔軟な発想、力をお借りしながら更に邁進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、新しい年も皆さんにとって素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

### ■ 特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



新年明けましておめでとうございます。平成最後のお正月を皆様いかがお過ごしになりましたでしょうか。穏やかな日に誘われて私は日替わりで初詣に3回も行きました。

さて今回の原稿を眺めると、この四半期には多くの学会・研究会が、当センターまたは当センター職員の主催で開催されていたことがわかります。

日本小児在宅医療支援研究会、全国重症心身障害者日中活動支援協議会近畿ブロック研修会では「地域」と「多職種連携」をキーワードとして重症障害児のQOLの向上に向けた活発な討議がなされたことがうかがえます。

DSB基礎講習会は6回を重ねましたが、講習会の需要は減ることなく多くの方々に参加いただきました。特に海外から参加されたChoi先生は香港で脳性麻痺の医療に積極的に取り組んでおられる先生で、DSBに興味を持っていただき大変嬉しく思います。

日本小児理学療法学会は800名を超える参加者があり盛況であったとのことでした。年末には院内学会があって、いずれの発表も聞き応え・読み応えのあるものばかりでした。

職員の方々の日々の着実な活動の成果が感じられました。本年も引き続き努力していただきたいと思っています。よろしく願いいたします。



## 第8回 日本小児在宅医療支援研究会の報告

大阪発達総合療育センター 副センター長 船戸 正久

2018年9月29日（土）、神戸国際会議場で第8回日本小児在宅医療支援研究会を開催しました。台風上陸の最中予想を上回る511名が参集し、「どないするねん、地域での小児包括支援」をテーマに日本全国から50演題の一般発表がありました。どの会場もほぼ満員で熱心な議論がなされました。



田村正徳氏による基調講演「医療的ケア児の地域包括支援システム構築に向けて」、前田浩利氏による特別講演「在宅におけるend-of-life care支援」、当セ

ンターの竹本潔氏による教育セミナー「安心して在宅人工呼吸を続けるために」、シンポジウム「どないするねん、地域での小児包括支援—近畿でのユニークな取組み」などを企画し、それぞれ先進的な活動を発表していただきました。今回初めて企画した市民公開講座で淀川キリスト教病院から人工呼吸器をつけて1990年に退院したミトコンドリア筋症の平本歩氏による「人工呼吸器をつけて地域で暮らす」という講演がなされ、大変好評でした。

こうした問題が各地域の中で益々重要となり、関心を持って支援する方々が増加している現状が伺われました。アンケート結果でも全体的に94%はとてもよかった・よかったとの感想があり、主催者としてホッとしている所です。



## 第6回 DSB基礎講習会が行われました

義肢装具科 科長 尾崎 和仁

平成30年11月23日に第6回DSB基礎講習会が開催されました。参加者はドクター8名、義肢装具士9名で、その中で香港から来られたドクターと義肢装具士が各1名参加されました。講習会が6回目になると国際的にまでDSBに興味を持った方が参加されたことは、とてもうれしく思います。

今までは1日半で行っていた内容を今回は1日で行った為、スケジュール内容はタイトでしたが、皆様のご協力を頂き予定通り終了した事に感謝致します。

DSBの歴史は梶浦理事長が発案されて10年経ちました。工夫や利用者の声を聴きながら形や材料を変更し進化してきました。次回の基礎講習会でも最新の情報をお伝え出来る様に開発や試験を続けていきます。

これからも利用者の方がDSBを装着する事で側彎治療になり日常のQOLの向上に役立つように、品質の高い製品になる様に努力します。



## 第13回 全国重症心身障害日中活動支援協議会近畿ブロック研修会の報告

療育部 サービス管理責任者 菅 直樹

平成30年12月1日（土）にあいほうぶ吹田（大阪府吹田市）にて『第13回全国重症心身障害日中活動支援協議会近畿ブロック研修会』が開催され、幹事4施設の統括という役割を拝命しました。師走に入り多忙中にもかかわらず、72名ものご参加を賜り厚く御礼申し上げます。

講演では、南條浩輝氏による「重症心身障害児者への在宅医療の実践と多職種連携」について実例をあげての多職



種連携の実際と今後の課題のご講演をいただきました。また重症心身障害当事者である北村佳奈子氏（チームかなこ）による「元気に暮らす～グループホーム

での暮らし、医療との連携」でグループホームでの生活や地方公演の様子をご講演いただきました。

事例発表では仁木悟氏より「活動報告～ボッチャ・プール」がありました。その後私からは、同協議会の全国大会で発表した「生活介護におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）」に、その後のメモリアルカンファレンスと偲ぶ会の様子を加えた「ACPの取り組み～在宅での看取り支援」の事例発表をさせていただきました。

さらに、情報交換会を兼ねたボッチャ大会も行い、ボッチャを多くの方々を知ってもらえるとともに、他事業同士でチームを作り交流を深めることもでき、参加者にとって大変有意義な研修会となりました。

今研修会での役割を通じて、企画、講師依頼、当日運営、事務局、学会参加など、幹事施設だけではなく当法人職員の協力をいただき、大役を果たすことができました。皆様のチーム力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 第5回日本小児理学療法学会学術大会の報告

リハビリテーション部 エキスパート理学療法士 日浦 伸祐



この度、第5回日本小児理学療法学会学術大会（2018年12月22日～23日；大阪国際会議場）の学術大会長を務めさせて頂きました。

1966年第1回日本理学療法士学会の開催以来、2013年に各分科学会に別れ、春の連合学会と秋の分科学会毎の小規模学術集会が開催されるようになりました。当学会としては第5回となりますが、単独の学術大会としては1

回目となります。大阪は療育システムが他地域に先駆けて発展し、地域・在宅を含め小児リハビリに関わる療法士が最も多い地域の一つです。役員からは、単独学会の最初は大阪で開催しようと推薦され、数年前から準備を行ってきました。

開催にあたり、法人のご理解と協力を頂き、特にリハ部では、PTの方には運営やスタッフとして、OT、STの方には当日の勤務のサポートを頂きました。

テーマは「小児理学療法～アートとサイエンスの世界」とし、臨床とエビデンスの橋渡しができるような学会にしたいとの想いで、講演、セミナー、シンポジウムを企画いたしました。参加数は単独学会ということもありますが、今までの最高の400余名を遥かに超える821名の参加を頂きました。多くの方から企画、運営についてお褒めのお言葉を頂き、盛会裏に収めることができたと考えております。

学術大会長の任、また、学術大会開催に際し、法人をはじめ、多くの職員の方々にご協力を頂いたことに感謝申し上げます。



看護部わかば病棟 看護師

満田 宏美



リレーエッセイ4番目わかば病棟の満田宏美です。突然ですが、皆さんはどんな趣味がありますか？？私は、旅行に行くことです。

今年も、夏休みを利用し北海道に行ってきました。今年の北海道は、地震で大災害があり、ギリギリ迷いましたが、遊びながら寄付をして回ろうということで、行くことに決めました。今回のルートは、知床～阿寒湖～旭川。知床といえば…。海の幸、新鮮なものが食べられると思うでしょ！しかし、1日目のホテルは、バイキング。ワクワク楽しみでしたが、刺身、うーんない。海の幸ってどれ？海鮮丼は？ない…がっかり。期待外れで正直ショックでした。2日目の阿寒湖のホテルは、何度か行ったことがあるので食事も温泉も最高でした。3日目の旭川方面。山奥のホテル。どこまで行くの、こんな場所にホテルあるの？外を見れば熊出没注意と看板がある。外は真っ暗。現地まで到着す

るまで不安でした。ホテルに入ると暑い。「テントウムシ大量発生なので、窓は開けないでください」とフロントで言われ、いったいどんな部屋なのと興味津々。部屋に入るなり、暑すぎて汗だく。エアコンがない。夜は、掛け布団いらずで、半袖で過ごす北海道にびっくり。でも、とても人の暖かさを感じるおもてなしのスタッフの方々で大満足でした。旅行を通して私も、わかばに入園してくる子ども達やご家族が来てよかったと思ってもらえるようなケアができたらと思います。

今回のリレーエッセイは、療育部介護福祉士、菅直樹さんです。お楽しみに♪

## イベントトピックス

### ザ・リッツカールトン大阪 来院

2019年12月5日、今年度も当センターにザ・リッツカールトン大阪から、サンタさんとリオンくんが来てくれました。

美味しいケーキも頂いて、とても賑やかで楽しいクリスマスになりました！！



# 平成30年度 院内学会及び清水賞 表彰

<b>院内学会</b>	最優秀賞	安全で楽しい食事の提供をめざして～新しい食形態の開発～	運営局栄養科	嶋田 容子
	優秀賞	あさしお園における自閉スペクトラム症を有する子どもへの作業療法支援	あさしお園	中島 るみ
	優秀賞	相談? ～相談内容からみる今後の地域との関わり～	地域医療連携部医療相談室	前田 好亮
<b>清水賞</b>	清水賞	「メモリアルカンファレンス」～急変で亡くなられた医療的ケア児との思い出の共有～		
	清水賞奨励賞	谷田真理子、苑田徳子、瀧本栄美子、中山昌美		
	清水賞奨励賞	重症心身障害児者入所施設におけるMTDLPの運用		
	清水賞奨励賞	植野 清香、黒澤淳二、須貝 京子、船戸正久		
	清水賞奨励賞	年長脳性まひ児の著作の獲得過程～中指と環指の分離を目指して～	坂本 渚	
清水賞奨励賞	生活介護におけるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の取り組み	菅 直樹		



## 職員研修実施状況 H30年10月～H30年12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

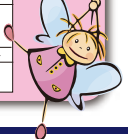
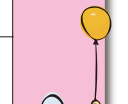
実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成30年10月22日(月) 17:40～18:40	教育研修部	「障害を持つ子どもの保護者支援を考える」	療育部ふたば 水野里佳	71名	5階ホール
平成30年10月29日(月) 17:40～18:40	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「ノロウイルス対策について」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	125名	5階ホール
平成30年11月27日(火) 17:40～19:00	セーフティネット委員会 教育研修部	医療安全研修 「指さし呼称の推進 同じインシデントを防ぐ対策」	元大阪警察病院副看護部長 志摩久美子氏	78名	5階ホール
平成30年12月4日(火) 17:40～18:40	情報セキュリティ委員会 教育研修部	個人情報保護研修 「情報セキュリティ対策講習会」	日本事務器株式会社 新谷敏郎氏	47名	5階ホール
平成30年12月10日(月) 17:40～18:40	医療ガス安全管理委員会 教育研修部	医療ガス安全管理研修 「医療ガス設備への理解と安全な使用のために」	株式会社パバ 医療ガス情報担当者 岡崎久幸氏	66名	5階ホール
平成30年12月13日(木) 17:40～18:40	運営局	事業説明会	梶浦正運営局長	82名	5階ホール
平成30年12月28日(金) 13:30～17:00	教育研修部	院内学会発表 「短期入所利用者への日中活動の導入とその成果」	療育部フェニックス4階病棟 松見良平	207名	5階ホール
		「本人主体の支援計画実現に向けて～MTDLPの実践報告～」	リハビリテーション部 長峰まい香		
		「安全で楽しい食事の提供をめざして～新しい食形態の開発～」	運営局栄養科 嶋田容子		
		「あさしお園における自閉スペクトラム症を有する子どもへの作業療法支援」	あさしお園 中島るみ		
		「多職種協働による呼吸ケアチームの効果」	看護部フェニックス4階病棟 内本 薫		
		「相談? ～相談内容からみる今後の地域との関わり～」	地域医療連携部医療相談室 前田好亮		
講演会「多職種協働によるボハース概念の実践 ～関係職種対象講習会の取り組みから～」	リハビリテーション部 植野清香				



## 大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

月	寄付者(敬称略)	物品名
10月分	藤 博行 井上 明生 匿名 (倉敷市) 紀伊 克昌 10月分楽基金 1件	DVD お菓子詰め合せ 多数 タオル 電動アシスト自転車 3台 キャラクター商品 多数 おもちゃ おむつ
	船戸 正久 (第8回日本小児在宅医療支援研究会会長) 匿名 (倉敷市) フェニックス家族の会 (クリスマス会) 11月分楽基金 6件	
11月分	株万代 (クリスマスプレゼント) 匿名 (なでしこキッズ、外來等の利用者処遇のため) 匿名 (奈良) 12月分楽基金 4件	絵本・おもちゃ 多数 自転車 DVD 2作品 みかん 多数 おもちゃ パウンサー・バンボ お菓子詰め合せ 多数 カラーボール、ワイヤレスマイクセット
	港区民生委員児童委員協議会(歳末見舞金)	

月	寄付者(敬称略)	物品名
10月	出野 彩佳 大阪農業青年クラブ 匿名 (奈良)	DVD お菓子詰め合せ 多数 タオル 電動アシスト自転車 3台 キャラクター商品 多数 おもちゃ おむつ
	(一社)生命保険協会大阪府協会 合同会社ユー・エス・ジェイ 匿名 (箕面市) 江塚 大祐 匿名 (摂津市)	
11月	石塚 雄大 匿名 (大阪市) バイオニア労働組合 大阪本場青果卸売協同組合	絵本・おもちゃ 多数 自転車 DVD 2作品 みかん 多数 おもちゃ パウンサー・バンボ お菓子詰め合せ 多数 カラーボール、ワイヤレスマイクセット
	匿名 (大阪市) 匿名 (東大阪市) 大阪農業青年クラブ	
12月	(社)生命保険協会大阪府協会 ホワイトテイルめだ商店会 日本出版販売(株)	菓子、離乳食 多数 本 2箱



## 大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会  
発行責任者・梶浦一郎

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)  
フェニックス(医療型障がい児入所施設・養護介護事業・短期入所事業)  
主として重症心身障がい児者  
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児  
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児  
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)  
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21  
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856  
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)  
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856  
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)  
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児  
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児

〒552-0004 港区夕風2-5-3  
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524